

小林勝人訳注「孟子」(上)岩波文庫、岩波書店 1968年2月16日刊、2011年6月6日第5刷を読む

### 内的な根拠をもつ「がんばり」を

1. (1) 孟子曰く、子路は人之に告ぐるに其の過<sup>あやま</sup>ちを以てすれば、則ち喜べり。
  - (2) 禹<sup>う</sup>は善言を聞けば、則ち拝せり。
  - (3) 大<sup>だい</sup>舜<sup>しゆん</sup>は焉<sup>こ</sup>(是)れより大なるもの有り。
  - (4) 善きこと人と同じければ、己<sup>おのれ</sup>を捨てて人に従い、人に取りて以て善<sup>な</sup>を為すを楽しめり。
  - (5) 耕稼<sup>こうかとうぎよ</sup>陶漁<sup>とうりょ</sup>より、以て帝<sup>てんし</sup>と為るに至るまで、人<sup>あ</sup>に取るに非ざる者なかりき。
  - (6) 諸<sup>これ</sup>を人に取りて以て善を為すは、是れ人と[共に]善を為す者なり。故に君子は人と[共に]善を為すより大なるはなし。
2. (1) 孟子がいわれた。「孔子の門人子路は自分の気づかぬ過<sup>あやま</sup>ちを忠告されるとたいへん悦んだ。
  - (2) また聖人といわれた夏<sup>か</sup>の禹王<sup>う</sup>は他人から善いことばをきくと、[尊い身分を忘れて]思わず『ありがとう』と頭を下げられた[ということだ]。
  - (3) ところが、帝<sup>しゆん</sup>舜<sup>しゆん</sup>になるとこの二人よりもいっそう偉大であった。
  - (4) 善いことなら、自分だけではなく人々といっしょに行なうので、もしも他人に善いことがあれば、ドンドン取り入れてはすぐさま実行にうつした。こうして他人の善を学びとっては、人々といっしょに実行するのを楽しんだのである。
  - (5) 歴山<sup>れきざん</sup>で農業をしたり、黄河<sup>くわん</sup>の辺りで陶器<sup>とうき</sup>をつくったり、雷沢<sup>らいたく</sup>で漁業<sup>りょぎょう</sup>をしていたときから、[後に帝<sup>ぎやう</sup>堯の譲りをうけて]遂に天子となつてからも、いつでもそうされたのである。
  - (6) かように他人の善を学びとってはすぐ実行にうつすのは、つまり人々といっしょに善を行なうというもの。だから、君子の徳としてこれより偉大なことはないのである。

P144 ~ 145

### [コメント]

「子路」「禹王」「帝舜」、三者三様の君主としての徳。少しずつでも学びたいものだ。

— 2012年11月4日 林 明夫記 —